

アジア通貨単位（AMU）の経常・資本取引での使用の可能性を探る

国際通貨研究所 西村陽造

アジアでも、共同体構想などの議論が高まるなか、アジア版 ECU であるアジア通貨単位（Asian Monetary Unit, AMU）の創設の提案や議論がみられるようになってきた。

欧州では長年の取り組みで経済・金融統合を進め、そのなかで、単一通貨ユーロの前身である欧州通貨単位（European Currency Unit, ECU）は重要な役割を果たしたことを踏まえると、AMU には大きく 2 つの用途がある。

第 1 は通貨価値を測る尺度としての機能である。域内通貨の AMU に対する価値を監視することは、域内の為替相場安定を図るうえで有用である。また、AMU の域外主要通貨（ドルやユーロ）に対する価値は、アジア全体としての望ましい為替相場政策を考えるうえでの重要な参考指標となる。

第 2 は、AMU を契約や取引の建値として機能である。すなわち、公的・民間取引、経常・資本取引において、建値として使用される場合である。

本稿では、後者について考察する。AMU には、為替リスク分散機能と、構成通貨の加重平均の金利を提供する機能がある。この特性を有効に活用できれば、AMU 建て取引の普及・拡大は、アジアの金融・資本市場の整備、アジア域内の貯蓄と投資の橋渡し、アジアが抱える為替リスクの低減、などに貢献しうる可能性を秘めている。

AMU 建て取引の普及を図るためには、その価値の安定と取引コストの低下を図ることが必要である。価値の安定については、AMU を使った域内為替相場安定への取り組みが有効である。一方、取引コストの低下については、理想的には、アジアの当局間で、構成通貨やウエイトについて合意に達し、1 種類の AMU を創設し、それが公的取引に使用されることが最も有効である。なぜなら、そのことは、AMU を取引に使用することに対する民間の信頼感を高め、AMU 建て資金決済システムの構築などを容易にし、取引の利便性を向上させるからである。

しかし、当面はこうした合意に達する可能性は低い。このため、AMU の構成通貨・ウエイトは取引の関係当事者間で決定する、AMU 建て取引の決済は、AMU 建て資金決済システムを想定できないので、相当額を特定の通貨で行うという前提で、AMU 使用の可能性を探っていくざるをえない。

欧州での ECU の民間使用では経常取引よりも資本取引が多かったこと、長期金融商品で始まり、それが短期金融商品へと広がったこと、なども踏まえると、債券・貸出での AMU の使用の普及を図ることが最も有望であり、こうした取引を促進するための条件を検討する。また、規模は小さいものの、アジア通貨バスケット指数取引が既に始まっており、その可能性についても考察する。